焼津市議会 凌雲の会 行政視察報告書

焼津市議会 村松 幸昌 議長 様

視察者 焼津市議会 凌雲の会
会長　石田江利子
会員　村松幸昌　河合一也
　　内田修司　増井好典（1 日目のみ）
　　井出哲哉　四之宮慎一（報告者）

令和 7 年 10 月 6 日から 10 月 8 日まで、凌雲の会で行政視察を実施し、鳥取県境港市、島根県大田市、同県浜田市において、各自治体の先進的な取り組みについて調査を行ったので、その概要について報告します。

１　境港市　「海業の取り組みについて」

（１）市概要

境港市は鳥取県西部に位置し、日本海に面した港湾都市である。人口は約 3 万 2 千人、面積は約 29 平方キロメートルと市域はコンパクトであるが、特定第三種漁港である境漁港と重要港湾である境港を併せ持ち、水産業と港湾機能を基盤として発展してきた。

昭和 26 年に重要港湾の指定を受け、昭和 41 年には背後地が臨海型工業用地として整備されるなど、商港・漁港・産業拠点としての役割を担ってきた。水産業においては水産物流通加工拠点の整備が進み、全国でもトップクラスの漁獲水揚量を記録した時期もある。

近年は高度衛生管理型市場として境港水産物地方卸売市場が整備され、境港おさかなパークとして見学・学習機能も備えている。また、水木しげるの出身地として水木しげるロードや記念館を中心とした観光振興にも力を入れている。

（２）事業概要と所感

境港市の海業の取り組みを視察し、まず感じたのは、観光のための演出を前面に出すのではなく、水産業本来の機能と質の向上を第一にしている点であった。

高度衛生管理型の市場は、現場の業務を最優先とした構造であり、その中で作業を妨げない形で見学通路が整備されている。閉鎖型の市場であるが清潔感があり、市場 2 階の見学スペースから水揚げや荷捌き、競りの様子を確認できる。

おさかなパークでは展示や滞在スペースがあり、まぐろデッキから入札の様子を見ることができる。調理実習室や学習室も整備され、魚の調理講習や試食会などにも活用されているとのことであった。市場を会場にした各種イベントも実施され、漁港見学ツアーは年間 1,500 人前後が参加している。人数制限はあるが、衛生と労働環境を第一に考えた運用であることが伝わった。

観光面では、水木しげると鬼太郎をまちの顔として徹底しており、平日にも関わらず観光客が多く、外国人観光客も目立った。海業そのものは派手ではないが、地域の実情に合った取り組みを積み重ねていると感じた。

（３）焼津市にとって参考となる事案等
境港市の取り組みから、焼津市が海業を進める上で参考とすべき点は多い。
まず、水産業の質を軸にしながら、市場を見る・知る・味わう導線を整え、交流人口の拡大につなげている点である。焼津市も水産物陸揚げ拠点として、高度な衛生管理体制を背景に、業務を妨げない範囲で見学導線を検討することは有効と考える。
焼津市では、さかなセンターが観光拠点である一方、漁港や市場との結びつきは強いとは言えず、点としての拠点が多い。今後、内港地区の計画も含め、買う・味わう・見る・知るを一つの流れとして整えられるかが重要である。
また、漁業者と子ども、市民が関わる仕組みづくりも参考になる。漁師と園児の交流、魚のさばき教室など、魚文化の継承につながる取り組みは焼津でも実施しやすい。さらに、焼津市には魚の歴史文化に加え小泉八雲ゆかりの資源もあり、これらを一つの物語として整理し、統一感のある発信につなげていくことが大切である。

２　大田市　「観光振興について（観光振興計画）」
（１）市概要
大田市は島根県中央部に位置し、日本海に面した自然豊かな地域である。人口は約 3 万人、面積は約 435 平方キロメートルと市域が広く、世界遺産の石見銀山遺跡、温泉津温泉、三瓶山など観光資源が点在している。
平成 19 年に石見銀山が世界遺産に登録された当初は観光客が急増し混雑が課題となった。その後は減少傾向となり、コロナ禍の影響も受けた。こうした背景を踏まえ、現在は来訪者数の増加だけでなく、観光の質や地域への波及効果を重視した観光振興が進められている。観光振興計画では、民間や地域団体が主体となり、行政は調整・支援に徹する役割分担が示されている。
（２）事業概要と所感
大田市の説明で印象に残ったのは、市はサポート・後押し役という立ち位置が明確である点であった。観光の主役は地域や民間であり、行政が前に出過ぎても上手くいかないという考え方が運

営に反映されていると感じた。
また、多ければいいというものではないという言葉には、世界遺産登録当初の経験に基づく重みがあった。歩く観光を基本としつつ、混雑対策としてバスを廃止し、定員6名のゴルフカート型車両を導入している。年間利用者は約2万6千人とのことで、歩く観光であっても移動手段の確保が必要であることが分かった。
一方で、観光拠点が離れていること、宿泊の受け入れに限りがあること、インバウンド対応や人材不足など、課題も率直に示され、観光振興の難しさを感じた。
（3）焼津市にとって参考となる事案等
大田市の事例から、焼津市の観光施策についても示唆を得た。行政だけで完結させず、民間主体の形をつくり、行政は調整役として機能する考え方は参考になる。
また、観光資源が多いからこそ、どこに力を入れるのかを明確にし、ターゲットを整理して発信する必要性を感じた。焼津市でも海業や食、景観など資源をどう束ね、入口をどこにするのかを整理し、市全体として伝えることが求められる。

３　浜田市　「議会改革について」
（1）市概要
浜田市は島根県西部に位置し、日本海に面した拠点都市である。人口は約5万人、面積は約690平方キロメートルで、市域は沿岸部から中山間部まで広がっている。平成 17 年に複数市町村が合併し、現在の浜田市が誕生した。
浜田市議会では、平成23年に浜田市議会基本条例を制定し、市民参加・情報公開・議会機能の強化を柱として議会改革を継続している。市民一日議会、地域井戸端会、学校・大学との意見交換など、特徴的な取り組みが多く、議会改革度調査でも高い評価を受けている。
（2）事業概要と所感
浜田市議会の改革は、特別な制度を一度に導入したというより、取り組みを積み重ねてきた結果であるという印象を受けた。
市民一日議会では、市民が議場で意見を述べる機会が設けられており、提案が政策に反映された事例もあるとの説明があった。地域井戸端会も、市民の話を聞くことに重点が置かれているよう

に感じた。小学生の議会訪問なども行われ、議会を身近に感じてもらう工夫が続けられている。また、本会議だけでなく委員会も映像配信され、議案や会議資料の事前公開など情報公開が徹底している。議会による事務事業評価の仕組みも特徴的であり、結果を公開することで議会の監視機能を高め、市民に分かりやすい形にしている点が印象に残った。生成 AI の活用など、新しい技術も取り入れながら改善を続けている姿勢も感じた。

（３）焼津市にとって参考となる事案等

浜田市議会の事例から、議会改革の目的は制度そのものではなく、市民との距離をどう縮めるかにあると改めて感じた。

焼津市議会でも議論は進められているが、課題が多く意見集約が難しい面がある。映像配信については、設備が整わない場合でも簡易な方法から始める考え方は参考になる。通年議会についても、完全実施を求めて止まるのではなく、段階的に進めながら課題を検討する形は現実的である。また、取り組みをホームページ等で丁寧に発信し続ける姿勢は重要である。議会活動はやって終わりではなく、市民に伝わる形にすることが信頼につながる。焼津市でも、内容の見せ方、伝え方の工夫を重ねていく必要がある。